江戸時代に米の生産が増えたわけ

江戸時代に、田の面積と米の生産が大きく増えたのはなぜでしょう

耕地（田畑）が広がり、米の生産が増えた

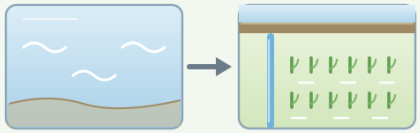
耕地の広さ（推計。棒は模式）



数値は資料によって違う。

田が広がる

1 新田開発



海や沼を堤防で囲んで干拓し、用水路を引いて、あれ地や台地にも新しい田を開いた。

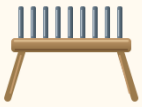
幕府や藩、商人が開発を進めた（年貢を増やすためなど）。

作業が速く、深く耕せる

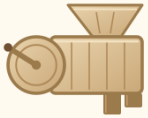
2 農具の改良



備中ぐわ
深く耕せる



千歯こき
稲の穂から実を速くはずす



唐箕
風で、もみとごみを分ける

農具の絵は、形の特徴を示した記号。

1つの田でとれる量が増える

3 肥料の工夫

それまで
草や木の葉、灰などを自分たちで集めて使う



いわしを干した干鰯や、菜種などの油かすを買って使い、収穫を増やした。肥料を買うお金が必要になった。

その先へ

米の生産が増え、
年貢や売る米も増える

売るための作物もつくる（商品作物）



など

お金で肥料を買い、作物を売る。商業が発達し、各地と三都が結び付いていく

特産物と三都の役割は、「三都と江戸時代の産業」の図へ。

新田開発で田が広がり、農具の改良と肥料の工夫で、作業が速くなり、とれる量も増えた。

※ 模式図。耕地の広さは推計で、数値は資料によって違う。農具・肥料の絵は特徴を示した記号で、実物の復元ではない。